# 50th

手稲鉄北サッカースポーツ少年団

創立50周年記念誌

# MESSAGE

## 手稲鉄北サッカースポーツ少年団創立50周年おめでとう

**一條　一人**　　**2022年度会長**

この度は、我が少年団が50周年という節目を迎えられたことを大変うれしく思います。

昭和、平成、令和と創立当時から比べると、働き方や家族の形までもが多様化し、日本社会の中でさまざまな変化が起こっている中、子供たちの育成に携わってくださった指導者の皆様、事務局、卒団生の皆様、そして父母会の皆様のご協力があったからこそ半世紀という歴史を刻んでこれたと思っております。この場をお借りして、心よりお礼を申し上げます。

そしてさらなる目標として、この先10年、50年先を目指して、私たち父母会もバトンをつないでいきたいと思います。これからも団の基本方針は変えず、時代のニーズに合わせながら三位一体となり団の運営を行っていく所存でございます。この先も、皆様のご指導ご鞭撻を賜りたく何卒宜しくお願い致します。

## 50周年のこと、熱い感情～少年たちが生の感動をくれました

**矢部　一弘**　　**指導者代表**

神蔵紀夫先生たちが昭和48年（1973年）に鉄北小学校で少年団を始めて以来、「鉄北サッカースポーツ少年団」は輝かしい記録を積み上げただけではなく、団の組織や規約をいち早く整備したことでも市内有数の、いや、全道に名を轟かせるサッカー少年団でした。

矢部は、団ができてからちょうど20年目になる平成4年（1992年）、鉄北小学校に赴任しました。そして、多くの団員や保護者の方々指導者たちと30年間、少年団での活動を続けさせてもらっています。特にこの1年は、ずっと私の30年間の活動のありようを振り返っています。

矢部が一番に感謝したいのは、やはり佐藤代表であり、佐藤和子さんです。平成14年（2002年）鉄北小学校から転出してから、中原アイ子さんと佐藤和子さんが事務局を起ち上げてくれ、佐藤則博さんは監督と代表を引き受けてくれました。佐藤則博さんは少年団の活動へのビジョンがあり、周囲の方々とコミュニケーションができ、プランの実行力がある。そして、鉄北少年団への大きな愛がありました。事務局は、他のチームに勝るとも劣らない仕事をこなしてくれています。常識にのっとった運営と調整力があります。矢部

などにはできないこと、他のメンバーがわからないことや団の諸問題に、何事にも毅然とした姿勢で臨み、少年団を助けてくれています。良いことは良い、悪いことは悪い、できることはできるができないことはやっぱりできないと、明確にしてくれます。本当に苦労の多い役割と仕事を引き受けてやってくれています。佐藤則博さん和子さんには、この場を借りて深く感謝の気持ちを表しておきたいと思います。

この原稿をどうまとめようかとぐずぐずしていた矢部は、12月2日のワールドカップ予選リーグ最終戦、日本とスペイン戦での日本代表の活躍に胸を熱くしていました。堂安選手の1点目、浅野選手の2点目の得点の場面で日本中が胸を熱くさせられましたよね。でもこの時、矢部は別のことに、手稲鉄北にこんなにも長く自分が関わり続けているわけ（生の感動）に気づきました。

「えっ、この熱い感情は、これまで手稲鉄北少年団の試合で、様々な場面で感じていた感動と同じだぞ。」

今まで、少年団の選手の活躍で何度も何度も体験させられたこの熱いもの、生の熱い感動を30年間、何度も何度ももらっていました。生の感動、これが矢部を長年支えてくれたエネルギーの源だったんだと考えています。そして、手稲鉄北サッカースポーツ少年団は「地域の子供たちが仲間と身近な環境でサッカーを楽しみ心と身体を育てる場でありたい」し、これからも、この環境を提供してけたらとも考えています。

皆様、これからも我が手稲鉄北サッカースポーツ少年団への応援、よろしくお願いいたします。

## 創立50周年を迎えて

**佐藤　則博**　　**1997年～2022年団代表**

手稲鉄北サッカースポーツ少年団創立50周年おめでとうございます。

団員父母、父母会役員、事務局、指導者の皆様に支えて頂いた結果だと思います。私も息子が三年生の時に「サッカーをやりたい」といったのが始まりでした。その後、父母会会長、指導者として27年間お世話になりました。

団員数が少なく、廃団になるのではと思った時期もありましたが当時の父母の皆様のお力添えで回避することができ、50周年を迎えることができました。

子供たちには常にワンランク上を目指して取り組んでほしいと思います。そこには、新しく見えるものがあります。その見えるものを追いかけ努力してもらいたい。皆さんでそのサポートをして頂き60年・70年と継続していただく事をお願いし、お祝いの言葉とさせていただきます。

# CONGRATULATORY MESSAGE　お祝いの言葉

## 手稲鉄北サッカー少年団創立50周年に寄せて

唐澤　俊樹　　札幌市立手稲鉄北小学校　校長

創立50周年おめでとうございます。半世紀の長きにわたり、サッカー競技の普及と子どもたちの育成にご尽力されてきたすべての関係各位に敬意を表します。

これからも皆様の熱い思いに見守られて、サッカーを愛する子どもたちがたくさん育っていくのだと思います。手稲鉄北サッカー少年団の益々のご発展を祈念いたします。

## 手稲鉄北サッカー少年団創立50周年を迎えて

及川　仁　　札幌市立手稲鉄北小学校　教頭

創立50周年を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。私がサッカー少年だった頃に対戦した覚えもあり、個人的に親しみを感じておりました。少年団活動への考え方や指導者問題等、社会的認識が変化する中で、変わらずに少年団活動の発展にご尽力された関係者や保護者の皆様に改めて敬意を表します。本校が開校58周年ですから、本校の歴史とほぼ同じ歩みですね。これからもサッカーボールを追いかける子どものために、手稲鉄北サッカー少年団が更なる発展をされますことを祈念いたします。

## 創立50周年おめでとうございます

高向　善信　　1979年~1987年指導者

「相撲取りがまわしを忘れて相撲が取れるか！」私の口癖です。

忘れ物をした団員には冒険公園10周が待っていました。 室蘭遠征の帰りのバスに乗り込んで出発しようとした時、宿の人が忘れ物の 傘を持ってきてくれました。 私の傘でした。 私が冒険公園10周するのを、子どもたちは微笑んで見ていました。 そんな子どもたちも立派な大人になりました。 再会を楽しみにしています。

## 創立50周年にあたって

木村　博之　　1993年度卒団生 JFA国際審判員

この度は、手稲鉄北サッカースポーツ少年団の創立50周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。私が少年団に入団したのは1990年、3年生の秋でした。鉄北小学校のグラウンドの上で多くの仲間たちと共に過ごした日々を鮮明に記憶しています。当時の広大なグラウンドに全団員が集い、練習に打ち込む雰囲気は活気に満ち溢れていました。団活動を通し多くの喜びや悔しさを経験しましたが、振り返るとそれら全てが楽しさであったと表現できます。卒団後は中学・高校のサッカー部でも鉄北出身の仲間、先輩・後輩と同じチームで、時には対戦相手としてプレーできたこともとても素晴らしい思い出です。

高校卒業後、指導者として団に受け入れていただき、選手の時以上に多くの方々との出会いがあり様々な刺激を受けました。現在、私は幸運にもJFAプロフェッショナルレフェリーとしてサッカーの審判を仕事として活動しておりますが、もし鉄北でサッカーに出会い、指導者として活動していなければ審判活動との関わりはなかったので

はないかと思います。少年団との関わりは私のサッカー人生における原点であり転機でありました。

これまで少年団に在籍した歴代団員、父母会の皆様、指導者の方々のサッカーに対する熱い想いにより50年という長い歴史を作り上げられてきたと思います。昨今、単独チームでの活動や練習場所確保が難しい地域やカテゴリーがある中、鉄北小学校のグラウンドに行けばサッカーができるという環境は非常に恵まれています。これこそが創立以来培われてきた伝統の一つであり、団運営に尽力されてきた方々への感謝の念に堪えません。純粋にサッカーを楽しむことに加え、多くの方々との出会いがあり、様々な可能性を生み出してくれる少年団です。地域のサッカーの普及と子供たちの育成に寄与し続ける手稲鉄北サッカースポーツ少年団の今後の発展と御活躍、保護者の方々をはじめとする関係者の皆様の御健勝を心から祈念いたしまして、創立50周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

鈴木　裕太郎　　1997年度卒団生

エスポラーダ北海道　選手

手稲鉄北サッカースポーツ少年団様、創立50周年おめでとうございます。これだけ長く続いている事を、卒団生として誇りに思います。

ここでサッカーを始め、ボールを蹴る楽しさ・仲間と団結する事・困難に立ち向かう勇気・仲間と協力し困難を乗り越えた時の喜び、沢山の経験させてもらいサッカーの面白さを知りました。
その経験を活かし今はプロフットサルチームのエスポラーダ北海道の選手として活躍しています。夢や目標を持って、沢山ボールを蹴って、努力を惜しまず、色んな事に勇気を持ってチャレンジしていけば、僕のようにエスポラーダ北海道の選手にもなれます。エスポラーダ北海道に入りたいと夢や目標を持ってくれると嬉しいです。

一度きりの人生、夢は大きく何事も笑顔で自分に関わる沢山の人に対する感謝の気持ちを忘れずに…これからもサッカーを楽しんで下さい。

改めまして、創立50周年おめでとうございます。手稲鉄北サッカースポーツ少年団のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

# COACHING STAFF

指導者からのメッセージ

## 創立50周年に寄せて

菊地　誠一

鉄北サッカースポーツ少年団、創立50周年おめでとうございます。

私は帯同審判として、まだ５年目の「ひよこ」ではありますが、創設以来、少年団活動にご尽力された皆様方に心から敬意を表したいと思います。

一口に50年とは申しますが、いろいろなご苦労があったと思います。少年団を継続させるためにはサッカー少年ならびにそのご父母の方々の熱意が一番大切なことと思います。

私は、主に試合当日の審判を通じての活動ではありますが、他の指導者の方々と力を合わせ、体力の続く限り鉄北サッカースポーツ少年団に寄与していきたいと考えています。

宮川　剛

鉄北サッカースポーツ少年団50周年おめでとうございます。

このような節目に携われている事に幸せを感じています。全ての関係者に感謝したいと思います。

これからも皆様に支えられ６０周年、７０周年

１００周年と永く続く少年団になることを願っています。

山本　忍

手稲鉄北サッカースポーツ少年団様、創立５０周年を迎えられ、誠におめでとうございます。
創立以来、幾多の喜びと苦難を乗り越えられ、記念すべきこの日をお迎えになられたのは、ひとえに歴代の父母会の皆様をはじめ、関わって頂いた指導者の方々の日々の努力とご研鑽の賜物と推察いたしております。私もこの素敵な節目の年を一緒に迎える事ができた事を大変嬉しく存じております。

貴少年団には、これを機にますますのご発展を遂げられることを心よりお祈り申し上げ ます。

高野　健一

この度は、手稲鉄北サッカースポーツ少年団の創立５０周年おめでとうございます。私自身も一卒団生として大変嬉しく思います。昔とは違い、近隣にたくさんのクラブチームがある中、５０周年を迎えられたことは、ひとえに在団生の父母のみなさまのご協力や矢部先生をはじめ熱心に指導されてきたコーチのみなさまのおかげだと思います。これからも手稲鉄北サッカースポーツ少年団が、子どもたちにとって楽しくサッカーができる場所となれるよう微力ながらサポートしていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

## 創立50周年に寄せて

渡邊　翼

このたび、手稲鉄北サッカー少年団が創立50周年を迎えられ、記念誌を刊行されますことを心からお慶び申し上げます。

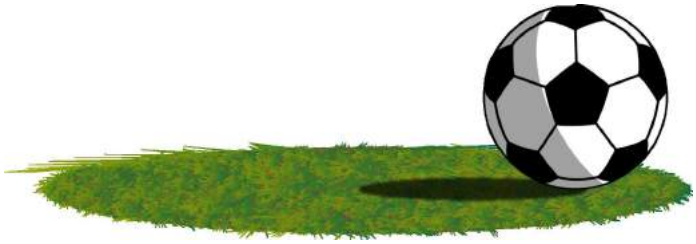
私は今年度より指導者として携わらせていただいていますが、卒団生やその父母の皆様の少年団への熱い想いを日々感じながら子どもたちの指導にあたっています。

また、先日実施した周年記念サッカー交流会の出欠関係を担当させていただいた際、皆様からのお返事と共に当時の様子を懐かしむメッセージを多数拝見しました。そうしたことからも、本当に多くの方が鉄北サッカー少年団に対して、素晴らしい思い出と思い入れがあるのだと感じられました。

そして、卒団生の中には、国際審判員として世界でレフェリングされている木村博之さんやエスポラーダ北海道で発足当時から活躍されている鈴木裕太郎選手など、北海道サッカー、または日本サッカーに大きく貢献されている方もおられ、長い歴史と伝統があるのだと実感しております。

現在は、少年団が少なくなる一方、クラブチームが多くなっているという時代の流れを感じますが、今後も手稲の地域密着型の少年団として持続していけるよう一指導者として尽力していきます。

最後に、手稲鉄北サッカー少年団、50年の輝かしい歴史と伝統を継承しつつ、さらなる飛躍を遂げられますよう祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



# HISTORY

1973年（昭和48年）4月　チーム創立
1974年（昭和49年）第6回道新杯札幌市スポーツ少年団サッカー大会準優勝
1974年（昭和49年）第6回全道サッカー少年団大会優勝
1976年（昭和51年）第8回全道サッカー少年団大会準優勝
1977年（昭和52年）第1回全日本サッカー大会北海道大会準優勝
1978年（昭和53年）第2回全日本サッカー大会北海道大会準優勝
1981年（昭和56年）第13回全道サッカー少年団大会準優勝
1982年（昭和57年）第1回ポプラライオンズ杯　3位
1984年（昭和59年）第16回全道サッカー少年団大会ベスト4
1985年（昭和60年）第17回全道サッカー少年団大会全道大会出場
1985年（昭和60年）第4回ポプラライオンズ杯　優勝
1985年（昭和60年）第8回全国少年総合ミニサッカー大会北海道予選　優勝
1986年（昭和61年）第18回道新スポーツ旗・北電カップ全道サッカー少年団大会　優勝
1986年（昭和61年）第10回全日本少年サッカー大会　ベスト4
1987年（昭和62年）第19回道新スポーツ旗・北電カップ全道サッカー少年団大会　出場
1987年（昭和62年）第17回道新杯兼会長杯争奪サッカースポーツ少年団大会　2位
1989年（平成1年）第21回道新スポーツ旗・北電カップ全道サッカー少年団大会　ベスト8
1990年（平成2年）第22回道新スポーツ旗・北電カップ全道サッカー少年団大会　ベスト8
1990年（平成2年）第9回ポプラライオンズ杯　ベスト８
1990年（平成2年）第14回全日本少年サッカー大会　札幌地区予選3位
1991年（平成3年）第23回道新スポーツ旗・北電カップ全道サッカー少年団大会　準優勝
1991年（平成3年）第1回全日本フットサル大会　北海道予選3位
1991年（平成3年）第15回全日本少年サッカー大会　札幌地区予選準優勝
1992年（平成4年）第1回JRS杯札幌サッカーフェスティバル準優勝
1992年（平成4年）第6回全日本サロンフットボール大会　3位
1992年（平成4年）第24回全道サッカー少年団大会札幌地区大会　準優勝
1994年（平成6年）第26回道新スポーツ旗・北電カップ全道サッカー少年団大会　準優勝
1996年（平成8年）第6回全日本フットサル大会　北海道予選　ベスト8
2015年（平成27年）バーモントカップ第25回全日本フットサル大会　全道大会出場
2016年（平成28年）SSSチャレンジカップ　準優勝
2016年（平成28年）第27回白石ワールドカップ　優勝
2017年（平成29年）第28回厚別少年サッカー大会　優勝

# TEAM FLAG

# UNIFORM

# PHOTOGRAPH

平成 15 年度卒団式

平成 16 年度卒団式

平成 17 年度卒団式

平成18年度卒団式

平成19年度卒団式

平成20年度卒団式

平成21年度卒団式

平成22年度卒団式

平成23年度卒団式

平成24年度卒団式

平成25年度卒団式

平成26年度卒団式

平成２７年度卒団式

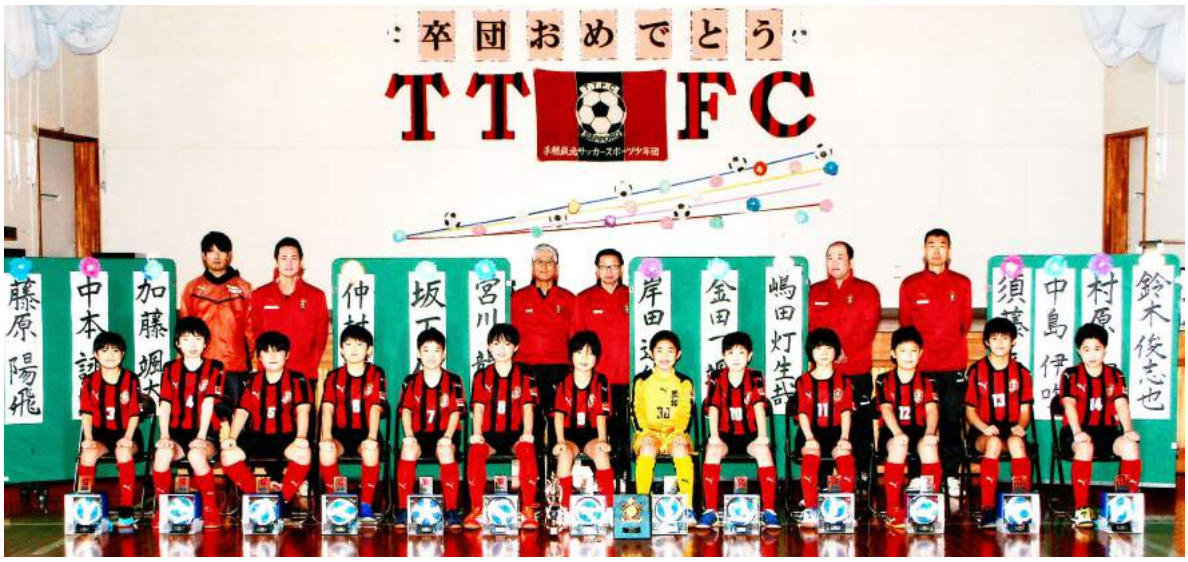
平成２８年度卒団式

平成２９年度卒団式

平成３０年度卒団式

平成３１年度卒団記念

令和２年度卒団式



令和３年度卒団式

# GRADUATES 歴代卒団生

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 昭和４９年度 | １６名 | 平成２年度 | ２４名 | 平成１８年度 | ９名 |
| 昭和５０年度 | １７名 | 平成３年度 | ３１名 | 平成１９年度 | ８名 |
| 昭和５１年度 | ８名 | 平成４年度 | ２１名 | 平成２０年度 | １１名 |
| 昭和５２年度 | ９名 | 平成５年度 | ２３名 | 平成２１年度 | ６名 |
| 昭和５３年度 | １９名 | 平成６年度 | ２４名 | 平成２２年度 | ４名 |
| 昭和５４年度 | １７名 | 平成７年度 | ３５名 | 平成２３年度 | ２名 |
| 昭和５５年度 | ６名 | 平成８年度 | ２０名 | 平成２４年度 | ５名 |
| 昭和５６年度 | ２３名 | 平成９年度 | １８名 | 平成２５年度 | ４名 |
| 昭和５７年度 | ２２名 | 平成１０年度 | ２２名 | 平成２６年度 | １０名 |
| 昭和５８年度 | １４名 | 平成１１年度 | １９名 | 平成２７年度 | １１名 |
| 昭和５９年度 | １０名 | 平成１２年度 | １１名 | 平成２８年度 | ９名 |
| 昭和６０年度 | ２７名 | 平成１３年度 | １２名 | 平成２９年度 | １４名 |
| 昭和６１年度 | ４０名 | 平成１４年度 | １０名 | 平成３０年度 | １０名 |
| 昭和６２年度 | ３０名 | 平成１５年度 | １２名 | 令和１年度 | ２名 |
| 昭和６３年度 | ３０名 | 平成１６年度 | １４名 | 令和２年度 | １３名 |
| 平成１年度 | １９名 | 平成１７年度 | ２１名 | 令和３年度 | ４名 |

合計７４６名

SAPPORO
T.T.F.C.
since1973
TEINE TETSUHOKU
football club